

仕事ができても余暇も楽しめる身体づくり
まずは健診(検診)から

健診(検診)を受けて自身の身体の状態をきちんと知り、身体に合わせた生活を改善して整えたり、必要な治療を適切な段階で受けたりすることは、血液や血管、臓器を良い状態にしていきま。そうすることで生活習慣病の発症や重症化を予防し、働き続けられる身体づくりができるのはもちろんのこと、だるさや疲れやすさの改善など体調が整いやすくなり、日々の仕事の効率を高め、余暇を楽しむ余裕も生まれることに繋がります。これらのことから、良好な経営のために従業員の健康管理に力を入れる企業が増えており、日本全体としても健康管理の経済への影響は大変重要視されるようになって

なっています。下川町においても、元気に働きしつかり余暇も楽しめる人が増えることは、町の活性化と持続にも繋がっていくと考えます。今年度まだ健診(検診)を受けていない人は、お忘れなくお申込みください。これまで健診(検診)を受けたことのない人、お得なクーポンをお持ちの人は、この機会に受けてみませんか？

■しもかわ仕様の健診

下川町はメタボリックシンドローム予備群・該当者が多く、健診結果でもBMI・腹囲・血糖・尿酸などの内臓脂肪

肪の蓄積による項目が高い傾向があり、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病性腎症等のリスクが高い特徴があります。町の健診は、これらのような市民の健康実態にあわせて検査項目を充実させています。さらに今年度から、集団健診において尿中アルブミン検査と眼底検査を全員に実施するようになり、尿中アルブミンは、尿蛋白では見落としてしまう早期腎症の発見に有効です。眼底検査は、脳の血管からの枝分かれで、目の血管を直接観察でき、血管の変化を知ることができる検査です。検査項目は増えましたが、健診料金は500円のまま受けられます。

【集団健診(検診)のご案内】

■日時・場所

月日	場所	受付時間
11月3日(土)	総合福祉センター	午前6時～10時
4日(日)	「ハピネス」	*待ち時間を短くするため、30分ごとにご案内します。

- *受付時間にご希望のある人は、申し込み時にお知らせください。
- *今年度から結核検診は実施していません。65歳以上の人で胸のレントゲンを病院等で撮らない場合は、肺がん検診をお申込みください。
- *日程の都合がつかない場合は、個別健診(検診)もあります。

- ・今年度40歳になる人は、「胃がん検診」「肺がん検診」「大腸がん検診」が無料です。
- ・今年度41歳、46歳、51歳、56歳、61歳になる人は、「大腸がん検診」が無料です。

項目	対象者及び検査内容	下川町 国保の人	左記以外の人
ハピネス健診	20歳以上39歳以下の町民 内容：身体測定・血液・尿・心電図・診察等	500円	
国保特定健診	国保加入者で40歳以上74歳以下の町民 内容：身体測定・血液・尿・心電図・診察等	500円	ご加入の医療保険にお問い合わせください。
後期高齢者健診	75歳以上の町民 内容：身体測定・血液・尿・心電図・診察等	500円	
胃がん検診	40歳以上の町民 内容：バリウム検査	500円	1,300円
肺がん検診	40歳以上の町民 内容：胸部レントゲン撮影	200円	400円
	内容：痰を採取して検査 (50歳以上で喫煙年数や本数の多い人、40歳以上で血痰の出る人、検査を希望する人)	300円	700円
CT肺がん検診	40歳以上の町民 内容：2.5ミリ間隔で全肺野を撮影	800円	2,000円
	④肺がん検診を受けられた人は、CT肺がん検診は受けられません 内容：痰を採取して検査 (50歳以上で喫煙年数や本数の多い人、40歳以上で血痰の出る人、検査を希望する人)	100円	300円
大腸がん検診	40歳以上の町民 内容：検便検査(2日分)	300円	700円
前立腺がん検診	50歳以上の男性の町民 内容：PSA血液検査	1,760円	2,060円
内臓脂肪CT検診	20歳以上の町民 内容：～その高さでCT写真を1枚撮影	単独400円 CT肺がんとセットの場合200円	500円
エキノコックス症検診	小学3年生以上の町民 内容：血液検査	無料	

※各種がん検診は、75歳以上の人、生活保護を受けている人は無料です。

CT肺がん検診と肺がん検診の両方は受けられません。検診の違いをご確認の上、お申込みください。

◆CT肺がん検診のメリット

- ・従来の肺がん検診では見えにくい心臓・胸骨・肋骨などの陰に隠れているがんや2cm以下の小さながんなども発見できるため、より早期にがんを発見でき、治療により完治する可能性が高まる。
- ・肺がん以外の呼吸器や循環器の病気を確実に診断できる。
- ・乳腺や肝臓、副腎などの病気が偶然発見される場合がある。

◆CT肺がん検診のデメリット

- ・がんでないのに精密検査や経過観察が必要とされ、負担を負う可能性が高くなる。
- ・生命に危険のない非常に発育の遅いがんが発見され、必要以上の検査や治療を受ける可能性がないわけではない。
- ・放射線被ばく線量は、胃がん検診とほぼ同じで、現時点では安全な範囲とされているが、胸部X線肺がん検診の約7～8倍。

申込み・お問い合わせ
保健福祉課 保健・介護グループ
総合福祉センター「ハピネス」
☎・☆413356